



H21. 8. 7. No1263
静岡県漁業協同組合連合会
☎054-254-6011 Fax054-253-9343
編集・発行＝指導部 漁政課
URL: <http://www.jf-net.ne.jp/sogyoren/>

自立漁協の構築に向け合併・事業統合を進めよう

高瀬 進氏（水技研主幹）の両氏より、それぞれ「駿河湾のさかな」と題して魚の生態や魚体の特徴が解説され、実際に子供たちは普段見慣れないマトウダイやメジロサメなどの魚にも触れあいました。

また、同実行委員会では、8月9日に清水港の清水マリパークにおいて、しらす漁業の見学会を開催することが予定されています。

なお、これに併せ、県漁業士会の15周年の記念イベントとして、広く市民を対象に沿岸漁業を紹介したパネル展示や各種魚の展示、未利用魚の試食、魚のさばき方教室が実施されることになっています。

4. 7月に30,000尾を三重県の適地（有滝）で放流

県ふぐ漁組合連合会では、7月10日三重県の有滝にて、標識を施したトラフグの稚魚（6cm）30,000尾を放流しました。

当日は、近隣漁協である伊勢湾漁業協同組合の地先海面より、活魚車にて搬入された標識トラフグを放流すると、元気よく沖に泳ぎ出しました。

この稚魚は、県漁連・温水利用研究センターで種苗生産され育成したもので、事前作業として8日と9日の両日、県行政担当者や水技研、県漁連関係者の協力で、トラフグの左側にある胸ヒレをカットしたものです。

本県でのトラフグの漁獲量は、20年度が47.6トン。本県内で漁獲される伊勢三河系群トラフグの生態はほぼ明らかになり、放流効果も表れているが資源状況は依然として不安定であるため、三重・愛知・静岡の研究者の報告により、放流適地とされた三重県の有滝に、県ふぐ漁組合連合会では3年前から継続実施しています。

解禁となる本年10月には、これら資源繁殖保護の活動が実り、漁業経営の維持安定が図られるよう願っています。

5. 伊豆地域のマダイ放流行われる

（財）静岡県漁業振興基金

前号で、本年度の伊豆地域のマダイ沖出し作業が終了したことをお知らせしました。

沖出しとは、県漁連浜岡温水利用研究センター（沼津分場）で生産された稚魚を、内浦、田子、網代3ヶ所の海上イクスに移動する作業のことで、その後約1ヶ月半の飼育（中間育成）を経て各地に放流されます。

沖出しから放流までの一連の作業は、地元漁協、市町及び当基金で組織する伊豆地域栽培漁業推進協議会の事業として実施されます。

このほど協議会では、内浦、田子、網代3ヶ所の中間育成地において飼育魚を計数し、8月上旬までに伊豆半島各地に放流を行いました。放流魚の大きさは70～80mmです。

各地の放流尾数（概数）は沼津と戸田に153千尾、伊豆西岸（南伊豆～土肥、6ヶ所）に136千尾、伊豆東岸（熱海～下田、10ヶ所）に272千尾、総計約561千尾となりました。

種苗生産から中間育成まで約3ヶ月、多くの人たちが苦勞して育てたマダイが天然の海で元気に育ち、大きくなって帰ってくることを祈るばかりです。

漁協系統事業の全利用運動を進め組織の強化を図ろう

1. 平成21年度 第2回天草共販入札会開催

本会では、7月15日天草共販事業の第2回入札会を、伊豆漁協（本所）において開催しました。

第2回までの取扱累計は数量30,030kg 本数1,203本（前年度比19,835kg、795本減）、取扱金額25,564,816円（同12,791,674円減）、平均価格は8,513円/10kg（同821円増）となりました。

なお、第2回の入札結果は次のとおりです。

▽入札数量：20,605kg（826本/25kg）▽取扱金額：16,882,541円 ▽平均単価：8,193円（10kg当たり）▽最高価格：稲取（まくさ粗）19,590円（10kg当たり）。

<参考>次回第3回入札会の開催は、8月19日（水）です。

2. 由比港漁協 青年部 設立総会を開催

7月15日、静岡市由比生涯交流館において、由比港漁協 青年部組織の設立総会が行われました。

当日は、設立発起人を代表として柿崎 尚氏があいさつし、来賓として県漁連 村松指導担当参事から設立への祝辞が述べられました。

議長には、大石達也氏が選任され、設立経過及び趣旨、規約（案）、役員選任、事業計画（案）や収支予算（案）及び県漁協青壮年部連合会への加入が上程され、全事項が可決承認されました。

青年部会員は、主幹漁業の桜エビ漁業、しらす漁業や定置漁業から、72名の参加があり、構成年齢を50歳以下と定年制を設けています。

なお、初代会長には、原 剛氏が選任されました。

3. 「おさかなふれあい事業」 三保で地曳網の漁業体験に歓声あがる

7月19日、静岡市清水区三保において、静岡市民を対象に募集した「清水お魚ふれあい事業」（地曳網漁業体験）が開催されました。

この企画の主催は、清水お魚ふれあい事業実行委員会（清水漁協・静岡市・県漁連）によるもので、親子88組 約300人が参加しました。

当日は、宮城島清水漁協長（実行委員長）の挨拶に続き、1,000m沖合に地曳網を投入した後、環境保全活動の一環として全員で海岸の清掃作業を行いました。

その後、地曳網漁業について漁協の宮城島参事の説明に続き、参加者は2班に分かれ、左右の袖網を曳き最後に袋網の中に入ったタイ・サバ・アジやカサゴ・ヤガラなどピチピチ跳ねる漁獲物に大歓声をあげていました。

さらに、網揚げ終了後は、とれた魚の観察会が行われ、岸本和弘氏（元東海大学教授）、

安全・安心な水産物供給と活力ある漁業づくりに努めよう